

令和6年4月に入職し、管理課に配属となった渡辺です。入職したばかりで、何もわからない自分が、災害ボランティアセンターの運営支援に行くなんて考えてもいないことでした。

私が、体験した現地の災害ボランティアセンターの活動の様子をお伝えします。

今回、4月22日から30日までの期間、石川県輪島市災害ボランティアセンターの運営を支援する東京都内の市区町村社会福祉協議会の一員として、被害の大きかった輪島市の社協に出向きました。輪島市では、輪島朝市の焼失についての報道が取り上げられていますが、海の隆起や崩壊した家屋を実際に目の当たりにし、被害の大きさを改めて感じました。

輪島市では、沢山のボランティアの方が活動を行っていましたが、今もまだまだ多くのボランティアを必要としている状況でした。実際に、「タンス、ソファ、本棚を2階から1階に移動させたい」「災害で発生したごみを片づけたい」「コンクリートの駐車場がひび割れてしまったため修復したい」などの困りごとがありました。特に、最後の困りごとに関しては、一般のボランティアでは活動が難しく、重機のスキルや専門の知識を有する技術系のボランティアに繋ぐ調整を行いました。

また、実際にボランティアの受け入れや、依頼者とボランティアを繋ぐ調整、災害ボランティアセンターの運営補助、住民の生活状況やご家族の状況、健康状態、家屋の状況等の確認などの支援をさせていただきました。住民の方々の中には、未だボランティアの存在を知らない、災害ボランティアセンターのことを知らない方が多く、一軒一軒訪問し、困りごとの相談を受けました。必要があれば現地調査を行い、ボランティアに依頼の調整をしました。

ボランティアに参加された方は、住民の笑顔に接し、「少しは力になれたかな」と優しい表情でおっしゃっていました。また、戸別訪問を通して、災害ボランティアの職員は、各々の事情を抱える地域住民に寄り添い、一人も取り残さないサポートと継続的な支援が必要だと実感しました。

万が一、荒川区で災害が発生した場合、荒川区でも輪島市と同様、私たち社会福祉協議会が、災害ボランティアセンターを立ち上げます。復興には、地域の方々だけではなく、区外からの多くの支援が必要となります。そのため、多くの方にボランティア活動や支援活動に関心を持っていただけたら幸いです。詳しくは、荒川区社会福祉協議会のボランティアセンターのサイトに、ボランティア募集やボランティア講座等の情報を記載しております。ぜひ、ご覧いただきご活用ください。

